

授業実践(「～てくださる」・「～ていただく」系の待遇表現の使い分け)における成果と課題

— 小学校 5・6 年生を対象として —

余 健*

Achievements and problems in the classroom practice in the use of honorific expressions

— *tekudasaru* and — *teitadaku* — A case of fifth and sixth graders —

Yo Ken*

要 旨

特に若年層において、自身の敬語の使用能力に自信を持っていない人が多いと言われて久しい。しかし、小学校の高学年の段階で、「現状でも実は、ある程度の敬語（～てくれませんか・～てもらえませんか等）は使用できているのだ」という点について、もう少し評価されても良いように考えられる。本授業実践では、待遇表現の枠組みに基づき、メタ言語的に確認することを敬語学習の出発点にすることで、児童が、より自信を持って自発的にその後の敬語学習に取り組んでいけるのではないかと考えた。そのために、小学生にとっても身近で考えやすい、依頼場面に焦点を当て、まずは 5 年生の時点で、敬語を使用しない丁寧な表現（～て・～てくれない・～てもらえない等）における使い分けについての授業実践を行った。次いで 5 年生で授業を受けた同じ児童が 6 年生になった時点で、5 年時の授業とは、異なる依頼場面を取り上げ、敬語表現（～てくださる・～ていただく系）を中心とした各表現の使い分けについて授業実践を行った結果、両授業における各成果 3 点と両授業に共通する成果 1 点、並びに課題点 5 点が確認された。

キーワード： 待遇表現 敬語を使わない丁寧な表現 敬語表現 ～てくださる・～ていただく 使い分け 依頼場面 メタ言語

1. はじめに

様々な社会生活において、各目的に応じた敬語を実際に使用する際の「よりどころ」として「敬語の指針」が、文化審議会国語分科会によって答申され、従来の敬語 3 分類から敬語 5 分類への提言がなされた（2007）。また、自分や相手の呼び方の問題や依頼の仕方等における敬語以外の問題も取り上げられている。なお、それらの内容の背景には、言語学系の敬語論では、一般的に取り上げられる待遇表現¹⁾の枠組みが存在しているものと考えられる。

菊池（1997）においては、待遇表現について、次のように定義づけられている。

「基本的に同じ意味のことを述べるのに、話題の人物／聞き手／場面などを顧慮し、それに応じて複数の

* 三重大大学教育学部

表現を使い分けるとき、それらの表現を待遇表現という」

上述した「敬語の指針」における「男性の一人称名詞」に関する呼び方としては、「私（わたくし）」「わたし」「僕」「俺」が挙げられている。男性は、「僕」を日常の生活で用い、また「わたし」をやや改まった場面で用い、「私（わたくし）」を更に改まった場面で用いるとされている。この指摘は、正に上記の待遇表現の定義に則した例といえ、「敬語の指針」におけるその他の敬意表現の説明からも、この中で「待遇表現」という用語は一度も登場しないものの「敬語の指針」の背景には、やはり待遇表現の枠組が存在しているものと考えられる。

また、「言う」の待遇表現としては、「おっしゃる」「申し上げる」「言います」「言う」「言いやがる」「ぬかす」「ほざく」の各表現を挙げられ、この内の「おっしゃる」「申し上げる」「言います」が、敬語に相当し、「言いやがる」「ぬかす」「ほざく」は、卑罵語（軽卑語、注2参照）に相当する。なお、この場合、敬語も卑罵語も「言う」（終止形・辞書形）を基準となるニュートラル形として捉えた場合の捉え方になる（菊池1997）。ここで、本稿の中心的な話題である敬語についての定義は、菊池（1997）において、次のように示されている。

「敬語とは、同じ事柄を述べるのに、述べ方を変えることによって敬意あるいは丁寧さをあらわす、そのための専用の表現である」

つまり、敬語は、待遇表現の中における聞手や第3者を立てる表現を指すわけである²⁾。上記の諸点を踏まえ、小学校の教科書4社における敬語の取り上げ方を確認したところ、最も待遇表現の枠組みを反映させていた内容は、教育出版における取り上げ方であった。「小学国語 5下」では、「敬語の指針」における敬語の5分類に関する記述を反映させた説明を行いつつ、母親が子どもに「早くやすみなさい。」「どうなっても知りませんよ。」という例のような機能的には敬語表現とは捉えにくい、むしろ待遇表現の枠組みとして捉えるべき内容についても取り上げられている。この点から連続的に、さらに、「小学国語 6上」では、全体的に待遇表現の枠組みに基づいた内容について触れられている。つまり、依頼の仕方において、「～に答えてください。」のような言い方よりも「～に答えてくださいますか。」のような疑問形の方が、より丁寧で穏やかな言い方になったり³⁾、学習発表会の終わりのあいさつを行う際には、和語による表現の「これで、学習発表会を終わります。」よりも漢語による表現の「以上で、学習発表会を閉会します。」の方がより改まった言い方になったりすることに触れられている（下線部は筆者が追加）。

本授業実践においては、小学校5、6年生⁴⁾の児童の言語生活における様々な具体的な現象を広く説明し得る待遇表現の枠組みに基づきつつ、教育出版の「小学国語 5下」における敬語表現中心の内容から、「小学国語 6上」における待遇表現中心の内容へと発展させていっている順番を逆にした授業を実践した。すなわち、児童が学校の教室場面において直面し、かつより多くの身近な表現が確認される、待遇表現の中でも「敬語を使わない丁寧な表現」を中心に取り上げた授業（2章）をまずは行い、次いで、より難易度の高い敬語表現（～てくださる・～ていただく系）を中心にした待遇表現の使い分けの状況を確認する授業（3章）を行うことにした。

2. 待遇表現(敬語を使わない丁寧な表現)を中心に取り上げた授業実践

2-1. 授業の概要

以下の日時における対象者に対して、「敬語を使わない丁寧な表現」をテーマとした、2-2に示す指導案の内容を3クラスに同様に実施した（余2018）。

①授業のテーマ：敬語を使わない丁寧な表現の場面による使い分け（国語科）

②取りあげる項目：「貸す」・「取る」・「返す」・「代わる」の各「～て・～てくれない？・～てくれる？・命令形」等

③授業実施日時：2018年11月21日（水）

2 時限(C 組 9:45-10:30)・3 時限(B 組 10:50-11:35)・4 時限(A 組 11:40-12:25)

④対象者：三重大学教育学部附属小学校 5 年生

⑤授業者：三重大学教育学部国語教育講座 余 健

2-2. 本授業実践のねらい

自宅と学校を中心にした子どもたちの限られた社会生活における身近な表現の中で、「友達から言われたくないなという表現」と比較しつつ、友達から言われて嬉しいな、気持ちいいなという表現について、実感してもらうことを通じ、普段のことばの使い方により関心を持てるようになることを目指した。

また、原田（2011）では、平成 17 年(2005)発行の小学校の教科書 5 社における敬語教材を使用した指導時に想定される学習活動として以下の 4 点を挙げている。

「①敬語の種類や働きを知り、②それぞれの種類の敬語を知り、③対話例を通してそれぞれの敬語を確認し、④実際に使用することである」

上記①から④までの学習活動において予測される問題点とその解決策として、以下の点を指摘している。「敬語の知識に偏重した指導となりがちになることが予想され、学習者に苦手意識を与えている可能性は否定できない。（中略）敬語はコミュニケーションの中で使用できて意味があるものであるという考え方に立てば、④実際に使用するという活動、換言すれば、敬語の知識を経験的に用いる活動を設けることの必要性が確認できる。」

上記の指摘に基づく④実際に使用するという活動が、実際に敬語を使えるようになる上で、とりわけ有効であることになるが、今回の取り組みでは、③対話例を通してそれぞれの敬語(本授業では「敬語を使わない丁寧な表現」)を確認する段階に焦点を当てる。この際、菊池(1997)で言うところの「本来は待遇とは別の性質の表現(あるいは表現差)が待遇表現の色彩を持つ場合」や蒲谷(2015)で指摘されている種々の「敬語だけじゃない敬語表現」に相当する「敬語を使わない丁寧な表現」に着目し授業実践を行った。また、その際には、5 年生の児童にとって身近な学校生活における以下の 4 つの依頼場面を取り上げた。

問題①コンパスを隣の人に借りる時の言い方

問題②落とした消しゴムをクラスの友達に拾ってもらう時の言い方

問題③借りた定規の返却を忘れていた友達に返してもらう時の言い方

問題④本来は自分の担当である水やり当番を少し忙しい友達に代わってもらう時の言い方

①から④の場面にかけて、話し手の依頼を行う上での心理的な負担感は、段階的に高まっていく。以下では、その授業実践における成果と課題を検討する。特に以下の 3 点について生徒には自ら考え、理解し、実際に普段使用する上記 4 つの場面に遭遇した時に、適切な表現形式を選択できるようになるきっかけとしたい。

(1) 相手に押し付ける言い方(貸せ等)よりも相手に押し付けない言い方(貸して等)の方が丁寧な表現である。

(2) 「～て」が入っていない言い方(貸せ等)よりも「～て」が入っている言い方(貸してくれない?等)の方が丁寧な表現である。

(3) 相手が行う行為が当然行われるべき依頼内容の場合(貸した物を返すように言う場面)は、「～て(返して)」の言い方が多く選択され、相手が行う行為が当然行われるべき行為ではない依頼内容の場合(自分の水やり当番を他の児童に代わってもらおう場面等)では、「～てくれる(代わってくれる／くれない?)」の言い方が多く選択される使い分けがあること。つまり、前者より後者の言い方が丁寧な表現である。

菊池(1997)や熊井(2003)、蒲谷(2015)においては、上記(1)から(3)までの待遇表現以外にも多くの「敬語を使用しない丁寧な表現」が紹介されている。本授業では、「小学校5年生の児童に対して取り出しの1回の授業時間内で、理解してもらえる内容であること」を前提条件とし、上記3点の待遇表現を取り上げることとした。この3点に気付き、実感を持って理解してもらうことを本授業における具体的なねらいとした。

2-3. 本時の学習の流れ(指導案・ワークシート・板書計画)

2-3-1. 指導案

時間	主な学習活動	指導上の留意点
<u>5分</u>	(1)自己紹介と授業の目的の説明	・敬語を使用しない丁寧な表現があることに具体例の確認を通じて関心を持たせる。
<u>7分</u>	(2)問題①「コンパスを隣の人に借りる時の言い方」を確認する。	・相手に命令する「貸せ」より、そうではない「貸して」の方が丁寧な言い方であることに気付かせる。
<u>8分</u>	(3)問題②「落とした消しゴムをクラスの友達に拾ってもらおう時の言い方」を確認する。	・「取れ」「取って」以外にも「取ってくれない?」「取ってくれる?」の言い方があることと「取れ」より「 <u>取って</u> 」における「て」が入った言い方が丁寧な表現であることに気付かせる。
<u>6分</u> (説明・ 回答記入)	(4)問題③「借りた定規の返却を忘れていた友達に返してもらう時の言い方」と問題④「本来は自分の担当である水やり当番を代わってもらおう時の言い方」について依頼内容の前提条件の違いを比較しながら確認する。また、問題③、④で回答した表現形式を選んだ理由について、問題⑤として考えさせる。	・「相手が行う行為が当然行われるべき」問題③の場合は「～て」のみの表現が多くなる一方で、「相手が行う行為が当然行われるべき行為ではない」問題④の場合は、「～てくれる・～てくれない」の形式が使用されることに気付かせる。合わせて前者より後者の方が丁寧な言い方であることも考えさせたい。まず、各個人で言い方とその理由を考えてもらい <u>ワークシート</u> に記入。次いで、グループ内で問題③、④における互いの回答語形と回答理由を共有する。※(正しい回答語形はないことを伝え、自身の回答語形に自信を無くさないよう配慮する)
<u>3分</u> (G. ワーク)		
<u>11分</u> (G. 毎の発表と説明)		
<u>2分</u>		

	(5)振り返りを行う。	・②から④の例文の回答から確認された敬語を使わない丁寧な表現の特徴を再確認する。その他の表現についても今後探したり考えたりしてもらいたい。
3分	(6)今日の感想を書く。	・ワークシートに記入。

2-3-2. ワークシート

敬語を使わない丁寧な表現 ワークシート

5年 組

名前 ()

◎次の問題③、④、⑤の[]内に入ることばを考えて書いてください。

次の問題③、④について、内容の違いをお互いに確認しながら、それぞれどのように言うか考えてみてください。また、答えたそれらの言い方をなぜ選んだのか、理由についてもそれぞれを比較しながら問題⑤で、答えてみてください。

問題③：あなたの定規を借りた友達が、返すことを忘れてなかなか返してくれません。その時、あなたは、自分の定規を返してもらうために、どのように言いますか。「返す」を使って、考えてみてください。

さっき貸した定規 { }

問題④：あなたは、園芸委員です。そして、一週間後の花壇への水やり当番は、あなたの当番の日です。しかし、急に用事ができてしまい、一週間後の水やり当番を誰かと交代する必要があります。そのことを少し忙しそうな友達に頼む必要がある場合に、あなたはどのように言いますか。「代わる」を使って、考えてみてください。

一週間後の水やり当番 { }

問題⑤：問題③と④で答えた言い方を比較しながら、それぞれの言い方を選んだ理由を考えてみてください。なお、問題④の「少し忙しそうな友達」の状況とは、「多くの習い事に通っている」状況と考えてください。

{ }

◎今日の授業の感想を書いてください。

{ }

2-3-3. 板書計画

板書計画

<p>敬語を使わない丁寧な表現 先生が教室に来る ↓ 先生が教室にいらつしやる・来られる。</p>	<p>問題① ……そこで「隣の席の人にコンパスを借りたい」時、どのように言いますか？ コンパス」</p>	<p>問題② ……その席に座っているクラスの友達に、「消しゴムを取ってほしい」と言う時、あなたはどのように言いますか？ その消しゴム」</p>	<p>問題③ ……あなたが貸した定規の返却を忘れていた友達に対して、あなたは、どのように言って、自分の定規を返してもらいますか。 さっき貸した定規」</p>	<p>問題④ ……忙しいような友達に水やり当番をどのように言って代わってもらいますか。 一週間後の水やり当番」</p>	<p>問題⑤ ……問題③、④の回答を比較しながら選んだ理由を考えてみてください。 「</p>
---	--	---	--	---	--

2-4. 授業実践の考察

本授業の導入の段階で、「今日は、敬語を使わない丁寧な表現について勉強していきます。実は、それは、皆さんが普段から使っている表現です」と切り出したところ、5年生の3クラスの児童の顔は「えっ！？ どういうこと？」という表情に変わり、一気に興味を示してくれた。ワークシートの感想欄にも、「丁寧な表現はイコール、敬語じゃないの？」と、最初は思っていたのでビックリした」という内容が、数人の児童の感想欄から確認されたことからその点がうかがえる。

以下に、授業内で取り上げた4つの具体的な場面設定をまとめて示し、当日の授業の流れに沿って、各場面の設定意図と児童の回答を確認しつつ考察を行って行く。

問題① あなたは、コンパスを忘れて来ました。そこで、となりの人に、コンパスを借りようとする時、どのように言いますか。

問題② あなたは、消しゴムを床に落としました。自分では取りにくい所にあります。その席に座っているクラスの友達に、「消しゴムを取ってほしい」と言う時、あなたは、どのように言いますか。「取る」を使って考えてみてください。

問題③ あなたの定規を借りた友達が、返すことを忘れてなかなか返してくれません。その時、あなたは、自分の定規を返してもらうために、どのように言いますか。「返す」を使って考えてみてください。

問題④ あなたは、園芸委員です。そして、一週間後の花だんへの水やり当番は、あなたの当番の日です。しかし、急に用事ができてしまい、一週間後の水やり当番を誰かと交代する必要があります。そのことを少し忙しいような友達に頼む必要がある場合に、あなたはどのように言いますか。「代わる」を使って、考えてみてください。

問題⑤ 問題③と④で答えた言い方を比較しながら、それぞれの言い方を選んだ理由を考えてみてください。なお、問題④の「少し忙しいような友達」の状況とは、「多くの習い事に通っている」状況と考えてください。

まず、問題①においては、5年生3クラスのほぼ全員が「貸して」を回答した。その回答を受け、私から「それでは『貸せ!』を使う人はいますか」と問いかけたが、これも全クラスで「『貸せ!』を使用する

ことは、あり得ない」という反応であった。ここで、「『貸して』と『貸せ！』では、どのように違いますか」と、尋ねたところ、前者は、「優しい、丁寧な表現」、後者は「上から目線の失礼な表現」という回答が確認された。問題①では、3章の(1)に挙げたねらい、すなわち「相手に押し付ける言い方(貸せ等)よりも相手に押し付けない言い方(貸して等)の方が丁寧な表現である」ことの確認を行い、ほぼ全員の児童の理解がワークシートの感想欄からも確認された。

次いで、問題②の設定意図としては、問題①と同様に、普段の教室で、実際に起こりうる依頼場面の中での回答を確認した。3クラス共に「取って」の回答が多かった。上記の問題①で確認されたねらい(1)に基づき、ここでは更に、「『取って』と『取れ』の両者における使われている文字の違いに注目して、『取れ』には入っていないけれど、『取って』には、入っている文字は何ですか」と私から尋ねた。促音「っ」の回答もあったが、ポイントの「て」の回答が出たところで、さらに『「取れ」と比較して、「取って」における「て」は、どんな意味を表していると思いますか』と尋ねた。5年C組の児童からは、「親しみを表している」という回答が出され、その回答に対して、「『取れ』と比較すると、『取って』の「て」には、『ありがたみ』も感じられますね」との説明を私が追加した。

さらに、問題③と④については、問題③が「相手が行う行為が当然行われなければならない行為で、話し手が相手に対して気を遣う必要性が低い場面」であるのに対して、問題④は、「相手が行う行為が当然行われるべき行為ではないため、話し手が相手に対して気を遣う必要性が高い場面」である。最初に、問題③と④の前提条件の違いを板書で、説明し、その後、まず、各自が、問題③と④の前提条件の違いを比較しながら、ワークシートに思いついた回答をそれぞれ、複数回答可で記入してもらった。次いで、問題③と④で、それぞれの言い方を選んだ理由をワークシートの問題⑤欄に書いてもらった。全員が③から⑤までを書き終えた後、グループ毎に各回答を確認し合ってもらい、全体交流を行った。

問題③と④において、確認された代表的な回答語形を以下に示す。なお、実際の回答語形においては、以下に示す①から⑤までの各語形を複数組み合わせられた回答も確認されている。

【問題③】①代表的な回答語形：返して・返して！・返せよ・返せ、②前置き表現(もう・そろそろ・すぐ・早く・いい加減に・使うから・僕のだから・借りっぱなしだと思うんだけど・使い終わったら)

【問題④】①代表的な回答語形：代わってくれない・代わってくれへん・代わってもらって良い？②謝罪表現(悪いけど・ごめんやけど)、③配慮表現(忙しいとは思うけど・君のスケジュールどう？・できたら)、④理由表現(急に用事ができてしまって)、⑤丁寧な表現(代わってください・代わってもらえませんか・代わってくれませんか・代わってくれないですか・代わってくれますか・代わってもらって良いでしょうか・よろしくお願いします・すみません)

問題③で、多かった回答語形は、「返して」で、問題④で多かった語形は、「代わってくれない？」であった。また、問題③の回答語形の長さは、全体的に短い表現形が多く、かつそのバリエーションが、問題④に比べると少ない。対して、問題④では、問題③に比べて、回答語形は長い表現形が多く、そのバリエーションも豊富である。問題③においては、相手に対して、明らかに怒りやいら立ちが表明されている表現形(返して！・返せ)に、②前置き表現(もう・すぐ・早く・いい加減に)が加わった表現形(すぐ返して！・いい加減、早く返せ)が、特徴的な表現形として確認された。

一方、問題④においては、肯定疑問形(代わってくれる？)より丁寧な形式であると言える否定疑問形(代わってくれない？)⁵⁾に、相手に対してできる限り負担を軽減しようとする②謝罪表現(悪いけど)や③配慮表現(忙しいとは思うけど)、さらには理由表現(急に用事ができてしまって)も加えた表現形(悪

いけど、急に用事ができたから、代わってくれない?)が、特徴的な表現として確認された。また、問題④の回答にのみ確認された丁寧な表現(代わってもらえませんか)においても、問題③の背景より問題④の背景により強く存在する「話し手が相手に気を遣う必要性」が明確に確認できるものと言えよう。

結果的に、問題③の代表的な表現形である「返して」よりも問題④の代表的な表現形である「返してくれる／くれない」の方が丁寧な表現であることも、上記の授業の流れの中で、自ずと子どもたちに理解されていたことが、ワークシートの感想欄から確認できた。なお、この点は、2-2 節で示した本授業が目指した具体的なねらいの(3)に相当する。

さらに、問題③と④で選んだ言い方を比較して、それぞれの言い方を選んだ理由を考える問題⑤においては、「問題③は、相手の不注意を気付かせる必要があるから少し強く言う、問題④は自分が頼む立場だから、理由もつけて優しく言う」のような指摘が多くの子に確認された。小学校5年生の段階で、問題③と④における依頼者である話し手の相手に対する立場の違いについての理解度は、大人とほぼ同程度であると言え、子どもたちに「敬語を使わない丁寧な言い方の使い分けは既にできているんだ」という自信を持たせることが可能である。2-2 節で触れた原田(2011)の指摘における敬語を学習する際に学習者が持ちがちな苦手意識を植え付けてしまう前に、上記のように、丁寧なことばを学習する際の出発点にあたる「敬語を使わない丁寧な表現」の状況に応じた使い分けについては、「既に自分たちでもできているんだ」という自信を持たせることが、その後のより難易度の高い尊敬語や謙譲語の敬語の学習を行っていく上でも非常に重要でかつ必要な点になってくるであろう。

全体的な時間配分としては、導入的な問題①、②は、端的に、児童からの回答も一人か二人で、切り上げ、上述の各ポイントを確認するにとどめた。対して、より深く考えたりグループワークを行い発表したりする時間を取る必要のある問題③、④、⑤に割く時間を長く確保するように努めた(2-3-1 節の指導案を参照)。実際に、3 クラス共に、私の予想を超え、特に問題③、④、⑤における児童からの積極的な発言が目立った。

この点については、2-2 節で触れた原田(2011)の指摘に基づき、小学校5年生の理解レベルに合わせた語彙や考えやすい日常的な場面を設定したことが、功を奏したものとも考えられよう。

ワークシートに書かれている内容からも全体的に意図した目的(2-2 節の(1)～(3))は、ほぼ達成されたものと考えて良さそうだ。この点は、「今日の授業を習って敬語を使わなくても丁寧なことばを使えると感じた」のような指摘が感想欄に多く書かれていたことからうかがえる。

丁寧な言葉遣いを学んでいく上で、まずは、子どもたちが、敬語以外の普段使用している身近なことばづかいの中にも丁寧な表現が存在していることについて、実感を持って認識し、既にその使い分けができていることに自信を持たせることで、次の段階における敬語表現の習得時も気持ちのこもった敬語表現の習得に、より自然に繋がり得ることが予想される。

3. 敬語表現を中心に取り上げた授業実践

3-1. 授業の概要

以下の日時における対象者に対して、敬語表現を中心的なテーマとした、3-3-1 節に示す指導案の内容を3 クラスに同様に実施した。なお、対象者は、2 章で取り上げた5 年生と同じ児童である。

①授業のテーマ：敬語表現（～てくださる・～ていただく系）を中心とした場面による使い分け（国語科）

②取りあげる項目：「返す」「代わる」の各「～てください・～です・～ます」形と「貸す」「来る」・「教える」の各「～てくださる・～ていただく」形

③授業実施日時：2019年7月1日（月）

1 時限(C組 8:45-9:30)・2 時限(A組 9:40-10:25)・3 時限(B組 10:45-11:30)

④対象者：三重大学教育学部附属小学校 6 年生

⑤授業者：三重大学教育学部国語教育講座 余 健

3-2. 本授業実践のねらい

新しい学習指導要領(2020 年度完全実施分)では、第 5、6 学年における知識及び技能面の目標として、「日常よく使われる敬語を理解し、使い慣れること (P35)」とある。また、表現、共有(話すこと)面における目標としては、「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること (P36)」とある。これらを踏まえつつ、以下の 3 点に気付き理解してもらうことが、本授業において具体的に目指すねらいである。

- (1) 基本的に敬語を使用する必要の無い友達に対する場面でも、敬語(～てください)を使用したり、また相手に負担のかかる依頼場面においては、友達に対しても敬語(～てください・～てくれますか・～てくれませんか・～てもらえますか・～てもらえませんか)を使用したりする傾向が強くなることをデータ(棒グラフ、3-3-3 節の図 1・図 2)から読み取れる。
- (2) この授業の基本事項である、「～てくださる」が「～てくれる」に、「～ていただく」が「～てもらう」に、それぞれ対応した敬語表現であることを理解できる。
- (3) 初対面や顔なじみのない(疎)、又は自分とは別の組織に所属する(外)目上の人物には、より丁寧な敬語表現(～てくださいますか・～ていただけませんか等)が使用され得ることを理解する。相対的に、顔見知り(親)や自分と同じ組織に所属する人物(内)には、より丁寧度の低い敬語表現(～てください・～てくれますか等)が使用されやすい実態も合わせて確認する。

前回の授業(2 章)で確認した、待遇表現の中でも「敬語を使用しない丁寧な表現」の特徴に焦点を当てた授業実践に基づき、今回の授業では、敬語表現の中でも非常になじみ度の高いと考えられる「～てくださる」と「～ていただく」を中心的に取り上げた。そして、上記 3 点の今回の授業におけるねらいをより明確にするために、授業内で取り上げた各例文の文末表現は、全て「～ますか(肯定疑問形)」と「～ませんか(否定疑問形)」の両形式に統一した(3-3-2 節参照)。

さらに、上記(3)のねらいにおいては、敬語の指導に際しての原田(2017)における「単なる知識的な指導にならないような実際的な指導を行う重要性」の指摘を踏まえた。2 章で 5 年生の児童にとって、より考えやすい学校生活における依頼場面を想定したのと同様に、今回 6 年生になった児童にとっても考えやすいと想定された以下の 4 つの実際的な依頼場面を設定した。

質問①校長先生に対して、1 か月後に行う街作りに関するクラスの発表会に「来てほしい」ことを伝えるときに、どのように言うか。

質問②地域の方(津市役所や鉄道会社等の方々)に対して、1 か月後に行う街作りに関するクラスの発表会に「来てほしい」ことを、手紙で伝えるときに、どのように言うか。

質問③担任の先生に対して、宿題で分からなかったところについて、「教えてほしい」ことを、伝えるときに、どのように言うか。「教える」を使って考えること。

質問④地域の方(津市役所や鉄道会社等の方々)に対して、もう少し詳しい仕事の内容を「教えてほしい」ことを、口頭で伝えるときに、どのように言うか。

3-3. 本時の学習の流れ(指導案・ワークシート・グラフ・板書計画)

3-3-1. 指導案

時間	主な学習活動	指導上の留意点(◆:予想される反応)
8分	<p>前回、5年時の授業(2章)の振り返り</p> <p>(1) まずは、問題Ⅲ、Ⅳの棒グラフ(3-3-3節の図1、2)を見て読み取れることを各自で2分考え、ワークシート(3-3-3節)に記入してもらう。その後、2名に気づいた点について発表してもらう。</p>	<p>・「命令形(返せ・代われ)＜～て形(返して・代わって)＜恩恵表現(返してくれる・代わってくれない等)」の順に、丁寧さが増していく、敬語を使わない丁寧な表現(～て～てくれる等)について復習する。</p> <p>◆問題Ⅲ(図1)では「返して」が一番多く、問題Ⅳでは「代わってくれない」が一番多い。</p> <p>◆問題Ⅳ(図2)の方が丁寧な表現(～てください・～てくれますか・～てくれませんか・～てもらえますか・～てもらえませんか)が多い。</p>
5分	<p>(2) さらに丁寧な敬語の使い方(「～てください」「～て頂く」)を確認する。</p>	<p>・まず、「～して<u>くれる</u>」が「～して(くださる)」に、「～して<u>もらえる</u>」が「～して(いただく)」に対応することを確認する(板書(3-3-4節参照)とワークシートで)。「～」には色々な語が入る。口頭で「助ける」を例に、「助けて<u>くれる</u>」を敬語に直すと「助けて(くださる)」、「助けて<u>もらえる</u>」は「助けて(いただく)」に対応することを確認する。</p> <p>・つぎに、㉠、㉡、㉢、㉣の()内における非敬語表現に対する㉠、㉡、㉢、㉣の()内に入る敬語表現を各自で考えさせる(ワークシート参照)。わかった人は、口に出さないよう、注意する。しばらくした後、㉠と㉡、㉢と㉣に入る各語形を挙手で答えさせる。</p> <p>・()内の敬語表現を全員で発音させてみる。</p>
3分	<p>(3) 校内の人(内)である校長先生か校外の人(外)である地域の方かで、敬語表現を使い分ける場合があることを知ろう。</p>	<p>・昨年勉強した問題Ⅲ(図1)とⅣ(図2)は、「友達」に対してお願いをする時の言い方を考えてみたことを確認する。今から勉強する質問①から④(ワークシート参照)は、先生や地域の方の「大人」(目上の人物)にお願いをする時の言い方を考えていくことを伝える。</p> <p>・質問①(内の人物に対して)と質問②(外の人物に対して)をセットで考えさせる。</p> <p>質問①は「話しことば」、質問②は「書きことば」のそれぞれ違いはある。しかし、ここでは特に質問</p>

<p>3 分</p> <p>7 分 (各自 回答 記入)</p> <p>3 分 (G. ワ ーク)</p> <p>13 分 (G. 毎 発表)</p>	<p>(4) 顔なじみの人(親)である担任の先生か初対面(地域の方)の人(疎)かで、敬語表現を使い分ける場合があることを知ろう。</p> <p>(5) 質問⑤質問①、②と質問③、④における各回答を比較して、傾向をまず各自で考えさせ、次いでグループで共有。最後にグループ毎に発表。</p> <p>(6) 5 年時の学習内容(2 章)と本時の学習内容を関連付けた振り返りを行う。</p>	<p>①と質問②で<u>相手が違うこと(内か外の違いまでは言わない)</u>を意識して「来てほしい」をどのように言うか考えてほしいことを伝える。</p> <p>◆質問①では、「来てください」、質問②では「来てもらえますか」や「来ていただけますか」を使う。</p> <p>・質問③(内の人物に対して)と質問④(外の人物に対して)をセットで考えさせる。質問③と質問④は共に話しことばの場面である。ここでも、先ほどの質問①、②と同様に<u>相手が違うこと(内か外の違いまでは言わない)</u>を意識して、「教えてほしい」をどのように言うか考えてほしいことを伝える。</p> <p>◆質問③では、「教えてください」、質問④では「教えてくださいませんか」や「教えていただけますか」を使う。</p> <p>・目上(年齢や立場上(教える側>教えられる側))の人物(この点については説明しない)でも、顔見知りの人物には「～ください」「～です」「～ます」等の敬語表現を使う一方で、初対面の人物にはより丁寧な敬語表現(～てくださる・～ていただく)を使用することがあり得ることに気づく。</p> <p>◆質問①や③の知っている人には、「～ください」を使い、質問③や④の初対面の人には、「～くれませんか」や「～いただけませんか」を使う。</p> <p>・昨年 11 月に勉強した結果(グラフ)から敬語を使う必要のない場面でも相手の友達に嫌な思いをさせたり、傷つけたりしないように、「返して<u>ください</u>」と敬語を使うことがある。また、何かを頼む場面で相手の友達にかかる負担が大きい場合は、「代わって<u>ください</u>・代わって<u>くれませんか</u>・代わってもらえ<u>ますか</u>」のような敬語を使用することがあり得ることもわかってきた。また友達には、めったにつかわない敬語表現(～もらえませんか・～いただけませんか)も、今日勉強した大人(先生・地域の方)に対しては、普通に使うことも見えてきた。更には、初対面の大人の方には、より丁寧な敬語表現(～頂く・～くださる)を</p>
---	---	---

3 分	⑨今日の感想を書く。	<p>使うことがあることを勉強した。今日、勉強したより丁寧な敬語表現(～くださる・～いただく)は、皆さんが社会に出た後もよく使う敬語表現なので今後、使えそうな機会があったら実際に使ってみてほしい旨を伝える。</p> <p>・時間があればワークシートに記入してもらおう。</p>
-----	------------	--

3-3-2. ワークシート

敬語 ワークシート (2019 年 7 月 1 日)

6 年 組

名前 ()

【前回の授業の振り返り】

問題：問題ⅢとⅣのグラフ(図 1、2)を見て、気づいたことを書いてください。

{ }

◎さらに丁寧な敬語の使い方を確認しよう！

(例 1) 先生が、コンパスを貸してくれる : 先生が、コンパスを貸して()

(例 2) 先生に、コンパスを貸してもらう : 先生に、コンパスを貸して()
 ～してくれる → ～して()
 ～してもらえる → ～して()

(担任の先生に対して) コンパスを貸してもらうことを丁寧にお願いするときの言い方。各上段の文の下線部の語を下段の文のかっこ内に敬語に直して書いてみよう。

㉗先生、コンパスを貸してくれますか → ㉗先生、コンパスを貸して()ますか

㉗先生、コンパスを貸してくれませんか → ㉗先生、コンパスを貸して()ませんか

㉗先生、コンパスを貸してもらえますか → ㉗先生、コンパスを貸して()ますか

㉗先生、コンパスを貸してもらえませんか → ㉗先生、コンパスを貸して()ませんか

【前回の授業との関連付け】

貸して<貸してもらえない<貸してください<貸してもらえませんか<貸して()ませんか
 左のことばから右のことばにいくほど、ことばの丁寧さは、(低くなる 又は 高くなる)

質問①：(校長先生に対して) 1 か月後に行う街作りに関するクラスの発表会に「来てほしい」ことを、伝えるときに、どのように言いますか。

校長先生、1 か月後にクラスの発表会があるので、()

上の () 内に入ることばを次の㉗から㉜の中から選んで、○印を付けてください。2 つ以上選んでも良いです。

㉗来て ㉘来てもらえない ㉙来てください ㉚来てもらえませんか ㉛来ていただけませんか

質問②：(地域の方(津市役所や鉄道会社等の方々)に対して) 1 か月後に行う街作りに関するクラスの発表会に「来てほしい」ことを、手紙で左の文章に続けて伝えるときに、どのように書きますか。

このたび、1 か月後の○月○日に、街作りに関する六年○組の発表会を行うことになりました。お忙しいとは、存じますが、()

上の () 内に入ることばを次の㉗から㉜の中から選んで、○印を付けてください。2 つ以上選んでも良いです。

㉗来て ㉘来てもらえない ㉙来てください ㉚来てもらえませんか ㉛来ていただけませんか

質問③：(担任の先生に対して) 宿題で分からなかったところについて、「教えてほしい」ことを、伝えるときに、どのように言いますか。「教える」を使って考えてください。

先生、宿題で分からなかったところを ()

上の () 内に入ることばを次の㉗から㉜の中から選んで、○印を付けてください。2 つ以上選んでも良いです。

㉗教えて ㉘教えてもらえない ㉙教えてください ㉚教えてもらえませんか ㉛教えていただけませんか

質問④：(地域の方(津市役所や鉄道会社等の方々)に対して) もう少しくわしい仕事の内容を「教えてほしい」ことを、口頭で伝えるときに、どのように言いますか。

(担当者の) ~さん、もう少しくわしく ()

上の () 内に入ることばを次の㉗から㉜の中から選んで、○印を付けてください。2 つ以上選んでも良いです。

㉗教えて ㉘教えてもらえない ㉙教えてください ㉚教えてもらえませんか ㉛教えていただけませんか

質問⑤：質問①、②と③、④で答えた言い方を比較して、気づいたことを書いてください。

3-3-3. グラフ

図1 問題Ⅲ: あなたの定規を借りて返すことを忘れている友達への言い方(2018. 11. 21 実施 5年生 91名の回答)

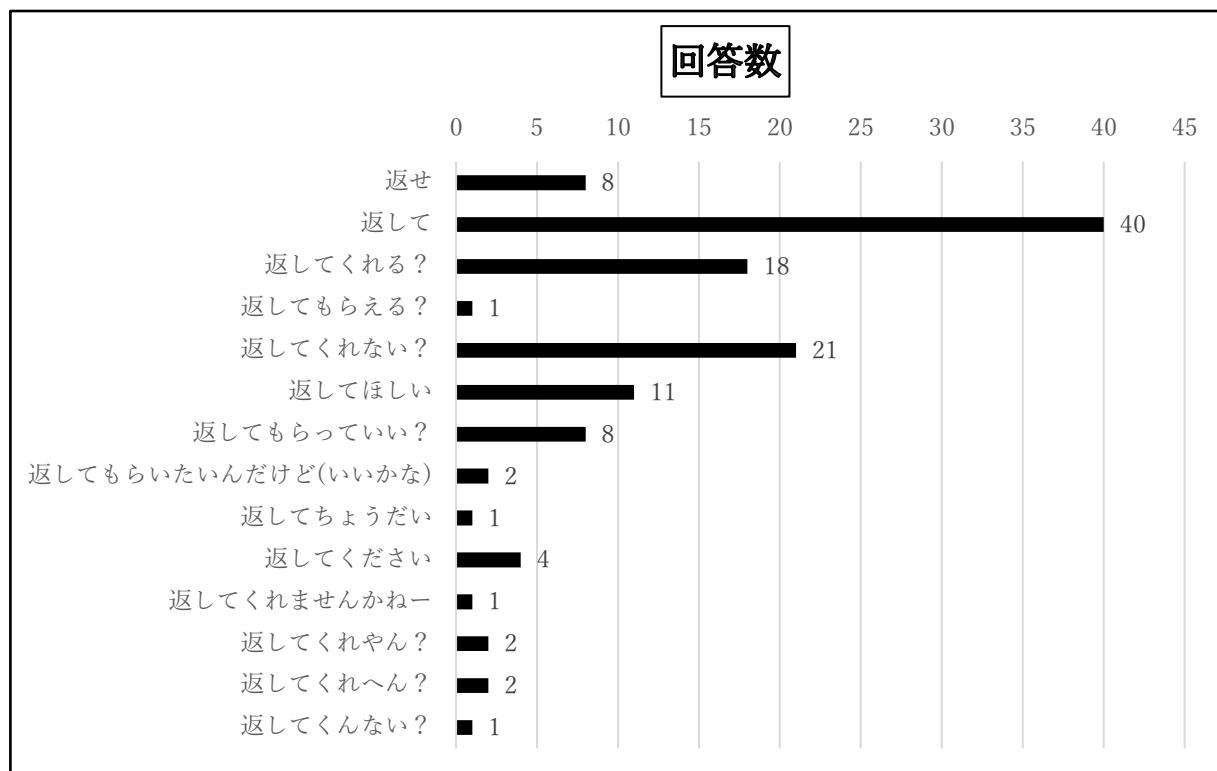
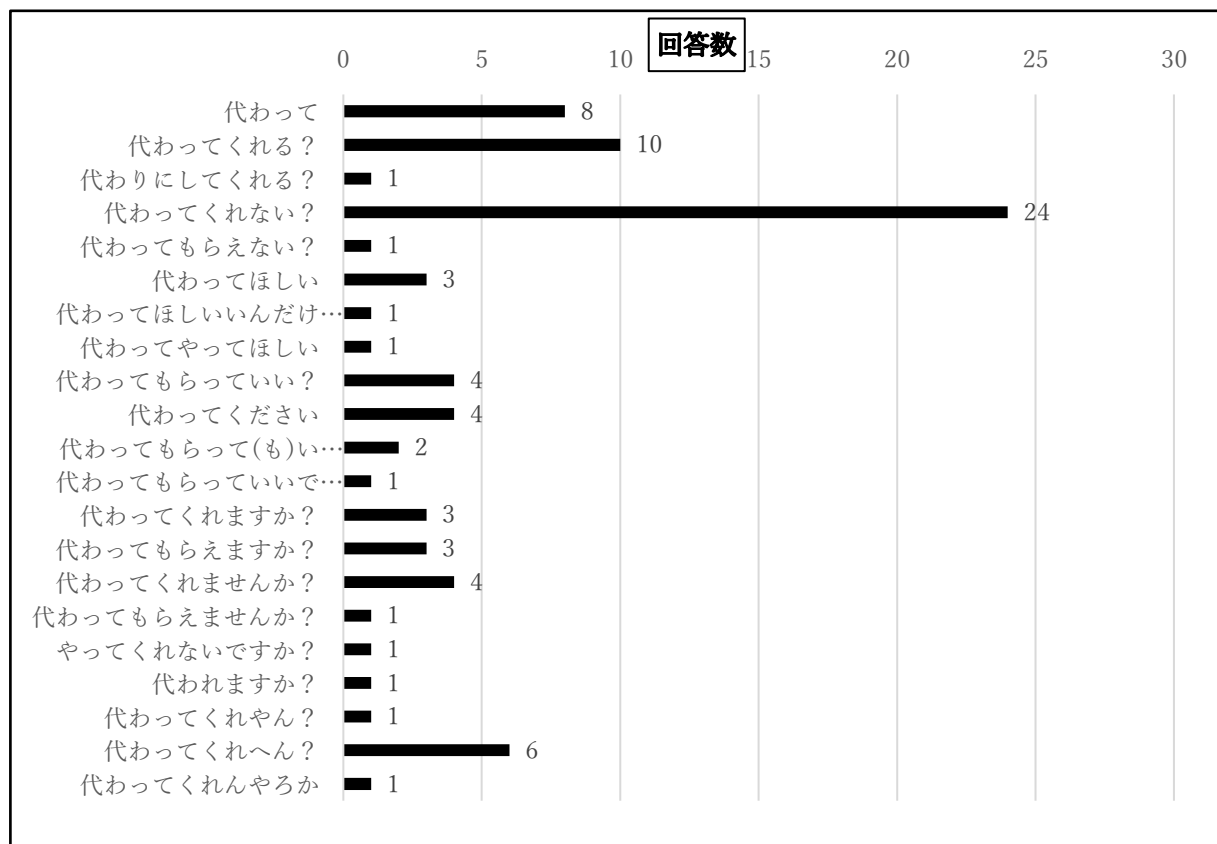


図2 問題Ⅳ 1週間後の水やり当番を忙しい友達に交代してもらおう時の言い方(2018. 11. 21 5年生 91名の回答)



※図2 凡例内「…」箇所の補筆(代わってほしいいんだけど、代わってもらって(も)いいいですか、代わってもらっていいでしょうか)

3-3-4. 板書計画

(メインの黒板)

敬語の使い分け	
問題 III	問題 IV
図 1 の グラフ	図 2 の グラフ
<p>問題…図1と図2のグラフを見て、気づいたことを書いてみてください。</p> <p>「 ※サブのホワイトボードの「より丁寧な敬語の言い方の確認」は、ここで行う。 質問①…(校長に対して)二ヶ月後のクラスの発表会に来てほしい時の言い方。 校長先生、発表会があるので」 質問②…(地域の方に)二ヶ月後に行うクラスの発表会に来てほしいことを手紙で伝達。 「お忙しいとは存じますが」 質問③…(担任先生に対して)宿題の不明点について教えてほしい時の言い方。 先生、宿題での不明点を」 質問④…(地域の方に)二ヶ月後に行うクラスの発表会に来てほしいことを口頭で伝達。 「お忙しいとは存じますが」 質問⑤質問①、②と質問③、④における回答を比較して、気づいたことを書こう。」</p>	

(サブのホワイトボード)

<p>より丁寧な敬語の言い方の確認 (担任の先生に)コンパスを丁寧にお願いして借りる時の言い方。</p> <p>貸してくれますか↓貸してくださいますか 貸してくれませんか↓貸してくださいませんか 貸してもらえますか↓貸して頂けますか 貸してもらえませんか↓貸して頂けませんか 「 貸してくれる↓貸してくださいさる 貸してもらおう↓貸して頂く」</p>

3-4. 授業実践の考察

3-4-1. 図1と図2のデータの読み取り活動から見てきたこと

まずは、前回の授業内容(2章)の振り返りを兼ねて、以下の問題ⅢとⅣの回答結果(図1と図2、3-3-3節参照)を見て、気づいたことをワークシートに記入してもらった。

問題Ⅲ あなたの定規を借りた友達が、返すことを忘れてなかなか返してくれません。その時、あなたは、自分の定規を返してもらうために、どのように言いますか。「返す」を使って考えてみてください。

問題Ⅳ あなたは、園芸委員です。そして、一週間後の花だんへの水やり当番は、あなたの当番の日です。しかし、急に用事ができてしまい、一週間後の水やり当番を誰かと交代する必要があります。そのことを少し忙しそうな友達に頼む必要がある場合に、あなたはどのように言いますか。「代わる」を使って、考えてみてください。

その後、3クラスにおいて、各2、3人の児童に発表してもらったが、「図1より図2の方が丁寧な言

い方が多い」「図1では敬語が少なく図2では敬語が多い」との発言を共通して得られた。また、ワークシートに、「図1では敬語が少なく図2では敬語が多い」という旨の内容を回答した児童数は、全3クラス92人中、40人に上り、以下に示す本時の授業実践のねらい(3-2節)の(1)に示した目的は、ある程度達成されたものと言って良いであろう。

- (1)(再掲載)基本的に敬語を使用する必要の無い友達に対する場面でも、敬語(～てください)を使用したり、また相手に負担のかかる依頼場面においては、友達に対しても敬語(～てください・～てくれますか・～てくれませんか・～てもらえますか・～てもらえませんか)を使用したりする傾向が強くなることをデータ(棒グラフ)から読み取れる。

また、「回答の種類が、図1より図2の方が多い」という指摘が3名の児童から確認され、実際、図1では、回答パターンが14種類存在するのに対して、図2の回答パターンは、21種類存在しており、上記の40名に加え、この3名においても、授業の短い時間内で、両データの特徴をより俯瞰的に捉えられていたものと認められよう。

さらに、「図1では、短くきつい表現が多いのに対して、図2では、少しやさしく長めな表現が多い」という指摘(1名)や「図1では、『返して』という敬語(～です・ます)の使用が少ないが、図2では相手が断れるような疑問形で聞いている表現が多い」という、より専門的な観点からの指摘(2名)が、なされており、データの読み取りについては、6年生であっても、その示し方次第で、かなり高度な指摘がなされ得ることも確認された。

一方で、「友達に敬語を使っている」や「図1で『返せ』を8人も使われていて驚いた」、「友達に対して言っているから『しますか』などの丁寧語で言っていないことに気づいた」のような指摘もあり、このようなデータを読み取る活動が普段の学校生活における言語生活の豊かさを感じたり、自身の言葉遣いを俯瞰的に振り返ったりするメタ言語能力の涵養にも繋がり得ることも示唆されたものと考えられる。

本時の授業実践のねらいの一つである3-2節の(1)に示した目的(上記に再掲載)と共に、この後、取り上げる敬語(～くださる・～ていただく)を学習する前段階で、「6年生の皆さんも普段から敬語(～ください・～です・～ます)を使えていますよ、あるいは、使おうと思ったら使える能力は既に持っていますよ」ということをまずは認識してもらう目的⁶⁾も、ある程度は達成されていたものと考えられる。

次期学習指導要領・小学校解説編の「思考力、判断力、表現力等(P134)」において、第5学年及び第6学年の学習事項(表現、共有(話すこと))として挙げられている内容(資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること)にも繋がる活動であるとも改めて指摘できよう。

3-4-2. 依頼場面による各待遇表現の使い分け状況からみえてきたこと

3-4-1節での取り組みを踏まえ、以下の依頼場面(質問①～④)による待遇表現の使い分けを考える際の前提事項として以下の2点を確認した。つまり、ワークシート(3-3-2節)と板書(3-3-3節)を使って、以下のとおり、㊦「くださる」は、「くれる」、そして「いただく」は「もらう」にそれぞれ対応する敬語であることの確認と㊦前回の授業(2章)の内容(敬語を使わない丁寧な表現)と今回の授業の内容(敬語表現)を関連付け、次の依頼場面(例1、2)における各待遇表現の丁寧度序列の確認を行った。

㊦(担任の先生に対して)コンパスを貸してもらうことを丁寧にお願いするときに何と言うか。

(例1) 先生が、コンパスを貸してくれる : 先生が、コンパスを貸して()

(例2) 先生に、コンパスを貸してもらう : 先生に、コンパスを貸して()

上記の 2 点を踏まえ、以下の質問①から④の 4 場面における、児童の使い分け状況を確認した。

校長先生、1 か月後にクラスの発表会があるので、()

㊦来て ㊧来てもらえない ㊨来てください ㊩来てもらえませんか ㊪来ていただけませんか

このたび、1 か月後の〇月〇日に、街作りに関する六年〇組の発表会を行うことになりました。お忙しいとは、存じますが、()

㊦来て ㊧来てもらえない ㊨来てください ㊩来てもらえませんか ㊪来ていただけませんか

先生、宿題で分からなかったところを（ ）

㉗教えて ㉘教えてもらえない ㉙教えてください ㉚教えてもらえませんか ㉛教えていただけませんか

(担当者の) ~さん、もう少し詳しく ()

㉠教えて ㉡教えてもらえない ㉢教えてください ㉣教えてもらえませんか ㉤教えていただけませんか

- ・担任の先生のような身近な人には、ことばの丁寧さが低くなって、「～てください」のように言うが、地域の方のような初対面であったり、知らなかったりする人には、ことばの丁寧度が上がって、「～て頂けませんか」のように言う。
- ・話す相手の親しみやすさで、ことばの丁寧さが変わる。
- ・「身内の人」か「身内以外の人」かで、ことばの丁寧さが違う。

今回の授業実践においては、ここで時間切れとなったが、上記の質問①から④におけるワークシートに書かれた回答をまとめたものが、表1と図3(共に今回の授業内では取り上げていない)になる。まず、単独の背景要因として最も多く確認された「親/疎による使い分け」の典型的な回答パターンとは、以下のようなパターンである。つまり、普段よく顔を合わせている担任の先生には、「～てください」を使用し、その他のあまり顔を合わせない校長先生や初対面の地域の方には、「～てもらえませんか」や「～ていただけませんか」のより丁寧な形式や敬語表現を使用する回答パターンを指す。この「親疎による使い分け」と後述する「親疎と内/外の両要因による使い分け」における「親疎」が関連する要因の回答率は、合わせると約60%に達する。

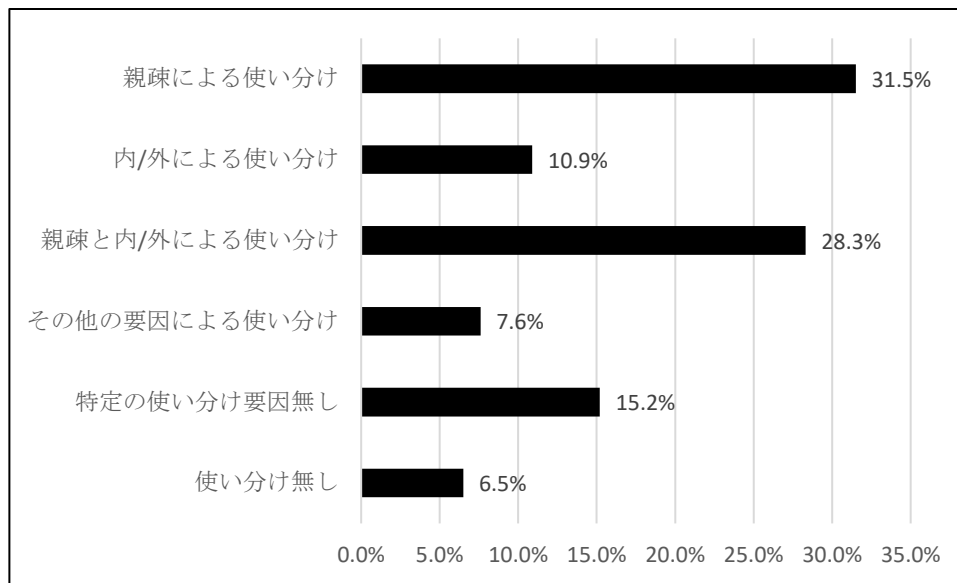
待遇表現を使い分ける際における様々な要因⁸⁾が、菊池(1997、2003)で指摘される中で、6年生の児童にとっては、自然に沸き起こる感情でもある「相手との親疎関係」に基づく要因が、待遇表現を使い分ける上で、最も身近にある背景的な要因であると言えよう。永田(2019)では、次期学習指導要領の「高校 現代国語」に挙げられている「敬意と親しさ」については、高校生のみでなく、中学生や小学生にとっても有効な学習事項であることが指摘されている。本授業内で確認した6年生の待遇表現における上記の結果は、その点を支持するものと言えそうである。

また、次に多く確認された単独の背景要因である「内/外による使い分け」の典型的な回答パターンとは、以下のようなパターンである。つまり、児童と立場は異なるが、小学校という同じ組織に所属している担任の先生や校長先生には、非敬語表現の「～て(教えて)」を使用し、児童と異なる組織に所属している地域の方には、敬語表現「～ていただけませんか」を使用する回答パターンを指す。さらに、「親疎と内/外の両要因による使い分け」の典型的な回答パターンは、普段より顔を合わせる機会の多い担任の先生には、「～てください」を使用するのに対し、あまり顔を合わせない校長先生には「～てもらえませんか」を使用する「親疎」に基づく使い分けと、内の目上である担任の先生や校長先生に対して、外の目上である地域の方には、「～ていただけませんか」のより丁寧な敬語表現を使用する「内/外」に基づく使い分けの両要因が複合的に確認され得る回答パターンを指す。普段の社会生活の中で、「～ていただく」のような敬語表現は、ほぼ使用する機会が少ない6年生の児童であっても、「内/外」が関わる要因で待遇表現を使い分けている回答率が、約40%確認された。

表1 質問①～④における待遇表現の使い分けの背景にある要因の一覧

質問①～④の回答パターンの背景にある要因	人数	回答率
親疎による使い分け	29人	31.5%
内/外による使い分け	10人	10.9%
親疎と内/外による使い分け	26人	28.3%
その他の要因による使い分け	7人	7.6%
使い分け無し	14人	6.5%
特定の使い分け要因無し	6人	15.2%
計	92人	100.0%

図3 質問①～④における待遇表現の使い分けの背景にある要因の一覧



なお、「その他の要因による使い分け」における要因とは、「書き言葉(質問②)か話し言葉(質問②以外)かによる使い分け」や「社会的地位(校長かそれ以外の人物か)による使い分け」、「それらの複合的な要因による使い分け」の各要因を指している。また、「使い分け無し」については、全ての目上の人物に対して、「～てもらえませんか」と「～ていただけませんか」を使い分けせず使用する人が3名、「～ていただけませんか」のみを同様に使用する人が2名、「～てください」「～てもらえませんか」「～ていただけませんか」を同様に使用する人が1名確認された。今回学習しているような敬語を実際の普段の生活の中では、使い分ける必要がほぼない6年生の児童にとって、「全ての目上の人に対して、等しく敬語を使用する」という感覚は、ごく自然な捉え方と言えるだろう。

- (3) (再掲載) 初対面や顔なじみのない(疎)、又は自分とは別の組織に所属する(外)目上の人物には、より丁寧な敬語表現(～てくださいますか・～ていただけませんか等)が使用され得ることを理解する。相対的に、顔見知り(親)や自分と同じ組織に所属する人物(内)には、より丁寧度の低い敬語表現(～てください・～てくれますか等)が使用されやすい実態も合わせて確認する。

3-2節の上記(3)(再掲載)で触れたとおり、今回の質問①から④の場面設定に際しての当初におけるねらいは、以下の点を6年生に認識してもらうことであった。つまり、「内」の目上である人物(担任の先生と校長先生)か「外」の目上である人物(地域の方々)かによって、もしくは「親」の目上である人物(担任の先生と校長先生)か「疎」の目上の人物(校長先生や地域の方)かによって、ことばの使い分けがあること、すなわち両要因共に前者より後者の人物に対して、より丁寧なことば(「～てもらえませんか」と「～ていただけませんか」)を使い得ることを授業内で認識してもらうことであった。

結果的には、本稿で対象にした6年生の児童にとっては、待遇表現を使い分ける際、「内/外」より「親疎」の方が、より身近で認識しやすい背景にある要因であることが、確認された(表1・図3)。一方で、何らかの要因に基づき、ことばの使い分けが確認された6年生は、親疎による使い分け(29人)、内/外による使い分け(10人)、親疎と内/外による使い分け(26人)、その他の要因による使い分け(7人)の総計72名(78%)に確認されることから、当初の上記(3)のねらいも、親疎と内/外の要因に基づく使い分けを中心に、概ね達成できたものと言えるだろう。

4. おわりに

本稿における授業実践（2章、3章）を通じて、以下の6点の成果が確認された。まず、2章の小学校5年生を対象にした授業において得られた成果は、以下の3点である。

- (1) 相手に押し付ける言い方(貸せ等)よりも相手に押し付けない言い方(貸して等)の方が丁寧な表現である点が理解された。
- (2) 「～て」が入っていない言い方(貸せ等)よりも「～て」が入っている言い方(貸してくれない?等)の方が丁寧な表現である点が理解された。
- (3) 相手が行う行為が当然行われるべき依頼内容の場合(貸した物を返すように言う場面)は、「～て(返して)」の言い方が多く選択され、相手が行う行為が当然行われるべき行為ではない依頼内容の場合(自分の水やり当番を他の児童に代わってもら場面等)では、「～てくれる(代わってくれる／くれない?)」の言い方が多く選択される使い分けがあること、つまり、前者より後者の言い方の方が丁寧な表現である点が理解された。

上記3点の成果に基づき、実施した6年生の時点における授業において得られた成果は、以下の3点である。

- (1) 基本的に敬語を使用する必要の無い友達に対する場面でも、敬語(～てください)を使用したり、また相手に負担のかかる依頼場面においては、友達に対しても敬語(～てください・～てくれますか・～てくれませんか・～てもらえますか・～てもらえませんか)を使用したりする傾向が強くなることをデータ(棒グラフ)から読み取れていた児童は、6年生92人中40人に確認された。この点から、図1、2(3-3-3節)を俯瞰的に読み取るという当初の目的は、ある程度達成されたものと言えよう。
- (2) この授業の基本事項である「～てくださる」が「～てくれる」に、「～ていただく」が「～てもらう」に、それぞれ対応した敬語表現であることが、基本的に理解された。この点に関しては、授業中の児童から「難しい」や「わかりにくい」といった反応が確認されなかったことに基づく判断である。
- (3) 初対面や顔なじみのない(疎)、又は自分とは別の組織に所属する(外)目上の人物には、より丁寧な敬語表現(～てくださいますか・～て頂きませんか等)が使用され得ることについては、ある程度、理解された。相対的に、顔見知り(親)や自分と同じ組織に所属する人物(内)には、より丁寧度の低い敬語表現(～てください・～てくれますか等)が使用されやすい実態も合わせ、ある程度理解された。

また、5年生、6年生の両授業実践を通じて得られた成果は、以下の点である。

○小学生にとって、普段の生活の中では、敬語(特に尊敬語や謙譲語)を使用する必要性に迫られる機会が少ない中、難易度の高い敬語(尊敬語や謙譲語)の学習に入る前段階で、本稿で取り上げたような日常生活の中で、児童自身が、既に自然に使い分けられている「敬語を使わない丁寧な表現」をメタ言語的に確認することで、自信を持つことにつながり、その後の本格的な敬語(尊敬語や謙譲語)に関して、より自発的に学習を進めていける可能性が示唆された。

なお、今後の課題については、以下の5点を挙げられる。

- (1) 小学校の国語の教科書において4社共に、「敬語」を5年生で取り上げているのに対して、本稿では6年生で取り上げた点との整合性や関連性を今後明確にする必要がある。

- (2) より抵抗なく敬語学習に入っていけるように、本稿で取り上げたような「敬語を使わない丁寧な表現」の内容(2章)であれば、4年生か3年生に対しても授業の実施が可能であると考えられるので、今後、実際に実践し、理解度等を検証する必要がある。
- (3) (2)の3、4年生の児童にもなじみのある「敬語を使わない丁寧な表現」の内容を導入することが、その後、高学年で学習する敬語学習を学習する上で、実際に自信を持ってまた、より自発的に学習を進めて行けるのかという点についての今後の検証が必要である。
- (4) 3章の内容を発展させた、中学生の段階における職場体験学習等で使用する待遇表現に関する指導案を検討し、実践し、課題点等を確認する必要がある。
- (5) 小学校3年生から中学生にかけて、「敬語を使用しない丁寧な諸表現」から「敬語表現」へと授業等で取り上げる内容の学習指導要領や教科書と照らし合わせたカリキュラム化を検討する必要がある。

注

- 1) なお、答申の中では、言語学の専門用語でもある待遇表現という用語は使用されず、ほぼ同じ概念でありつつ、より一般的なニュアンスを持つ「敬意表現」という用語が使用されているが、本稿では、より体系性を重視した表現といえる「待遇表現」を以下で使用するものとする。
- 2) 卑罵語(軽卑語)は敬語と対照的に「待遇表現の中における聞き手や第三者を貶める表現を指す」表現と定義づけられる。
- 3) 蒲谷(2015)では、依頼の仕方において、相手にNOと言えない指示を出す表現(～ください)よりも相手にNOと言える余地を残して依頼することになる表現(～ますか)の方が丁寧な言い方になる、との指摘がある。
- 4) 同じ児童を対象として、5年生の時点(2018年11月21日)での授業(2章)と6年生の時点(2019年7月1日)における授業(3章)をそれぞれ実施した。
- 5) 菊池(1997)には、<意向を尋ねる形をとって頼む場合、否定疑問形(～してくれない?)の方が肯定疑問形(～してくれる?)よりも丁寧な感じがする>ということも、概して言えそうである、との指摘がある。
- 6) 筆者が、普段、大学の授業で、敬語について取り上げていて感じるのは、自分の敬語の使用能力に自信が持ていない大学生が多い点である。それは、大学生自身の能力の問題ではなく、まだ敬語を使用しなければならない差し迫った状況に置かれていないだけの問題である可能性が高い。今回の授業の対象である小学生においても、本授業で敬語に関するより難しい内容を勉強する前段階で、身近な同級生に対して、ある程度の敬語は、既に使用できていることに、まずは自信を持ってもらうことが、今回の授業後の生活の中におけるより自発的な敬語学習に繋がり得るのではないかと考えた。
- 7) なお、依頼場面における敬語表現としては、「～ていただけますか」と「～てくださいますか」の両敬語表現が存在するが、蒲谷(2015)の調査によると、「～ていただけますか」においての方が、80%以上の人においてより丁寧に思われている、という指摘に基づき、以下の本授業の待遇表現における使い分けの状況を確認する上で、より考えやすくするために、「～ていただけますか」のみを以下では確認することとした。また、これと同様な理由で、依頼場面においては、「～ていただけますか」の肯定疑問形と「～ていただけませんか」の否定疑問形が存在するが、注の5における菊池(1997)の指摘に基づき、より丁寧な「～ていただけませんか」のみを以下では確認することとした。
- 8) 待遇表現を使い分ける際に関わる諸要因として、菊池(2003)には、以下の指摘がある。社会的ファクターとして、場および話題に関わる3要因(その場の構成者・場面の性質・話題)と人間関係に関わる4要因(上下・立場・親疎・内/外の各関係)が挙げられている。また、心理的ファクターとして待遇意図に関わる①ごく一般的な待遇意図から⑤特殊な待遇意図までの5要因やと背景的な要因としての3要因、表現技術・伝達効果の観点からの考慮要因が挙げられている。

引用文献

蒲谷 宏(2015) 敬語だけじゃない敬語表現 大修館書店

菊池康人(1997) 敬語 講談社学術文庫

菊池康人(2003) 敬語とその主な研究テーマの概観 朝倉日本語講座8 敬語 菊池康人(編) 朝倉書店、1-30

小学国語 5下(2015) 教育出版、10-13

小学国語 6上(2015) 教育出版、96-99

永田里美(2019) 国語科教育における敬語指導の課題 一次期学習指導要領の「敬意と親しさ」を見据えて― 明海

大学研究紀要—教育学部、9、29-42.

原田大樹（2011）敬語指導の現状と課題—小学校国語科を中心に— 日本教科教育学会誌、34、3、21-30

原田大樹（2017）小学校・中学校国語科における敬語指導教材—教材における「敬意」を中心に— 福岡女学院大学紀要. 人間関係学部編、77-84

文化審議会（2007）敬語の指針 文化審議会答申

熊井浩子（2003）「待遇表現」の諸側面と、その広がり—狭くとらえた敬語、広くとらえた敬語— 朝倉日本語講座 8 敬語 菊池康人(編)、31-52 朝倉書店

余 健（2018）授業実践（敬語を使わない丁寧な表現）における成果と課題 思草 三重大学教育学部、1- 13

（謝辞）

この度の授業実践という貴重な機会を与えていただいた三重大学教育学部附属小学校の松浦 均校長先生と西村哲二副校長先生、並びに 6 年生担任の岡井 崇先生、矢戸幹也先生、前田昌志先生に厚く御礼を申し上げます。また、本授業の模擬授業を実施した際に、貴重な意見をくれた三重大学教育学部 4 年生の石田主税君と野田陽菜さんにも感謝します。